

[明治美術学会 会員業績録 2000年4月1日～2005年3月31日]

## 明治美術学会 会員業績録

(2000年4月1日～2005年3月31日)

この夏、会員に対し、2000年4月1日～2005年3月31日の間に発表された主要論文の報告（3点以内）を依頼した。以下がそのリストである。なお、上記期間の枠を越えた論文と修士論文、口頭発表業績は掲載していない。誤植の責は作業にあたった丹尾に帰せられる。

名前	共著者	論文名/書名	掲載誌/掲載書	発行	巻号	刊行年月
赤木美日(筆名三木順子)		子どもの美術教室での卵黄テンペラの板絵作り	『美術教育研究』	東京芸術大学美術教育研究会	9号	2004年5月
荒井経		岩絵具—近代色料のローカルスタンダード	『美術手帖』	美術出版社		2005年5月
荒屋鋪透		芸術家村グレー＝シュル＝ロワン—その前史、地誌、および日本との関係について	『グレー村の画家たち』(展覧会図録)			2000年10月
荒屋鋪透		画家・中村不折再考—フランス最後の歴史画家ジャン＝ポール・ローランスとの交流をめぐって	『中村不折秀作集』	新葉社		2002年3月
荒屋鋪透		画家フォンタネージと芸術家村クレミュー—19世紀イタリア風景画における伝統と象徴	『伝統と象徴 美術史のマトリックス』	沖積社		2003年5月
有田巧		長谷川路可のフレスコ画<1>	『早稲田大学会津八一記念博物館紀要』	早稲田大学会津八一記念博物館	4号	2003年3月
有田巧		長谷川路可のフレスコ画<2>	『早稲田大学会津八一記念博物館紀要』	早稲田大学会津八一記念博物館	5号	2004年3月
李仲熙		朝鮮前半期 江湖山水画の風靡とその背景、—朝鮮前半期 詩的 山水画風の流行에 대하여—	『韓国詩歌研究』	韓国詩歌学会	12輯	2002年8月
李仲熙		『韓中日の初期西洋画導入 比較論』		한국연구칼럼		2003年2月
李仲熙		朝鮮後期 風俗画의 発生과 近代性	『韓国近代美術史学』	韓国近代美術史学会	13輯	2004年12月
石井元章		Venezia e il Giappone—studi sugli scambi culturali nella seconda metà dell'Ottocento		Istituto Nazionale di Archeologia e Storia dell'arte		2004年2月
石井元章		明治初期トリノの日本人留学生	『イタリア学会誌』	イタリア学会	53号	2003年10月
石井元章		エンリーコ・ヒラー・ジリオーリと日本	『イタリア学会誌』	イタリア学会	54号	2004年10月
伊豆井秀一		パブリックアート試論	『アートマネジメント研究』	美術出版社	3号	2002年11月
伊豆井秀一	榎原弘二郎・三澤一美・山田一文・田中晃	『ミュージアム・コラボレーション』の意義と課題	『埼玉大学紀要 教育学部(教育科学)』	埼玉大学教育学部	52巻2号	2003年4月
稲賀繁美		Un destin de pensée : L'impact d'Okakura Kakuzo sur le développement de l'histoire de l'art en Inde et au Japon au début du XX <sup>e</sup> siècle.	Livia Monnet (éd.), <i>Approches critiques de la pensée japonaise du X<sup>e</sup> X<sup>e</sup> siècle.</i>	Les Presses de l'Université de Montréal		2001年
稲賀繁美		Claude Monet, Between Impressionism and Japonism	<i>Monet and Japan</i>	Australian National Museum		2001年
稲賀繁美		編：特集号「近代東アジアの美術史学、建築史学、考古学の成立」	『日本研究』(国際日本文化研究センター紀要)	角川書店	26号	2002年12月
今橋映子		『<パリ写真>の世紀』		白水社		2003年6月
今橋映子		『展覧会カタログの愉しみ』(編著)		東京大学出版会		2003年6月
今橋映子	『バンテオン会雑誌』研究会	『パリ一九〇〇年・日本人留学生の交遊』 『バンテオン会雑誌』資料と研究』		ブリュック		2004年9月
岩切信一郎		尾形月耕—明治10年代から20年代の活動を中心に—	『浮世絵芸術』	国際浮世絵学会	144号	2002年7月
岩切信一郎		近代口絵論—明治期木版口絵の成立—	『東京文化短期大学紀要』	東京文化短期大学	20号	2003年3月
岩切信一郎		昭和新作版画の諸相—1930年代の伝統木版画	『日本の版画Ⅳ 1931～1940』(展覧会図録)	千葉市美術館		2004年8月
岩間真知子		帝展改組と京都画壇—橋本関雪に宛てた大観・玉堂らの書簡から	『近代画説』	明治美術学会	12号	2003年12月
植田彩芳子		横山大観筆《屈原》(巖島神社)についての考察	『美術史論叢』	東京大学文学部美術史研究室	21号	2005年3月
植野健造		近代の洋画 (第五章)	『柳川文化資料集成 第三集 柳川の美術Ⅰ』	柳川市		2005年2月

植野健造		名作ものがたり：青木繁《海の幸》の100年	『美術研究作品資料 第3冊 青木繁《海の幸》』	東京文化財研究所		2005年3月
植野健造		二科会—久留米の画家たちから—	『大正期美術展覧会の研究』	東京文化財研究所		2005年3月
歌野眞介		『油絵を解剖する—修復から見た日本洋画史—』		NHKブックス		2002年1月
歌野眞介	坂本一道、佐藤一郎	『明治後期油絵基礎資料集—東京芸術大学収蔵作品—』		中央公論美術出版		2004年9月
江川佳秀		靉光と太平洋画研究所	『太平洋美術会百年史』	太平洋美術会		2004年4月
江川佳秀		川端画学校沿革	『近代画説』	明治美術学会	13号	2004年12月
江川佳秀		二科会とサロン・ドートンヌ	『大正期美術展覧会の研究』	東京文化財研究所		2005年3月
及川茂		Edo Ukiyo-e Prints in European Artists' works	DARUMA	DAUMA Publishing	41号	2004年 春
及川茂		Meiji Shunga: The Comic Genius of Kawanabe Kyosai	Amy Newland (ed.) Japanese erotic fantasies	Hotei publishing		2005年1月
及川茂		フェリックス・レガメー著『おこま』と曲亭馬琴作『美濃舊衣八丈綺談』	『日本女子大学大学院人間社会研究科紀要』	日本女子大学	11号	2005年3月
大下智一		『ミュージアム新書24 山下りん』		北海道新聞社		2004年3月
大谷省吾		北脇昇の「図式」絵画について	『東京国立近代美術館紀要』	東京国立近代美術館	7号	2002年5月
大谷省吾		地平線の夢 序論	『地平線の夢 昭和10年代の幻想絵画』(展覧会図録)	東京国立近代美術館		2003年6月
大谷省吾		シュルレアリスムと俳諧—表現の<近代>はいかに問い直されたか—	『クラシックモダン 1930年代日本の芸術』(五十殿利治・河田明久編)	せりか書房		2004年12月
大坪潤子		<南部利祥像>に見る銅像の成り立ち	『歴史民俗資料学研究』	神奈川大学歴史民俗資料学研究科	7号	2002年3月
大坪潤子		銅像の建つ場についての考察	『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』	神奈川大学21世紀COEプログラム	2号	2004年12月
大坪潤子		高橋是清関連資料をめぐって—テーマ展「高橋是清—ダルマ宰相と港区」展示資料より	『研究紀要』	港区立港郷土資料館	8号	2005年3月
岡戸敏幸		『影』になること—越境する身体	『日本の美学』	燈影舎	35号	2002年12月
岡戸敏幸		正岡子規の画譜鑑賞	『鹿島美術研究年報』	鹿島美術財団	20号別冊	2003年11月
隠岐由紀子		ギター・ヴォー・モローと仏教美術	『ジャポニスム研究』	ジャポニスム学会	20号	2000年9月
隠岐由紀子		19世紀のパリで催された二つの日本画家新作展	『日仏美術学会会報』	日仏美術学会	22号	2003年9月
隠岐由紀子		創られる美術史…「世紀の祭典 万国博覧会の美術」展を見て	『ジャポニスム研究』	ジャポニスム学会	24号	2004年11月
五十殿利治		『日本のアヴァンギャルド芸術—マヴォ>とその時代』		青土社		2002年8月
五十殿利治		コマ絵投書と新興美術運動—『文章世界』投稿画を中心に—	『日本文学』		51巻11号	2002年11月
五十殿利治	河田明久	『クラシックモダン—1930年代日本の芸術』		せりか書房		2004年12月
甲斐繁人		『邯鄲夢枕』十三章「名島行」の二四図に描かれた丸山定夫像に関するノート(其の1)	『ねじ釘』(柳瀬正夢研究誌)	柳瀬正夢研究会	2号	2003年2月
甲斐繁人		柳瀬正夢「無産者新聞」時代の調査の現状と課題	『ねじ釘』(柳瀬正夢研究誌)	柳瀬正夢研究会	3号	2004年1月
甲斐繁人		『邯鄲夢枕』表紙装画の図像を読む	『絵画修復報告』		6号	2004年3月
鍵岡正謹		合戦図—絵金をめぐって	『大正ロマン』		24号	2004年8月
鍵岡正謹		界雲の美人画	『山本昇雲展』図録	高知県立美術館		2005年2月
鍵岡正謹		応挙と若冲、蕪村の淀川	『国文学』		50巻3号	2005年3月
勝山滋		画題の変遷—安田靉彦の歴史画をめぐって—	『日本画の巨匠安田靉彦—歴史画の魅力展』(展覧会図録)	平塚市美術館		2002年2月
勝山滋		今村紫紅「入る日・出る月(画稿)」とその周辺	『(財)横山大観記念館 館報』	(財)横山大観記念館	20号	2004年7月
金井忠夫		高橋由一 石版画下絵とその制作課程について	『那須野が原博物館紀要』	那須野が原博物館	創刊号	2005年3月

金子一夫		小山正太郎資料(三) 遊峽録舛稿	『五浦論叢』	茨城大学五浦美術文化研究所	10号	2003年10月
金子一夫		美術の方法論の理解を目的とする鑑賞教育(7)	『茨城大学教育学部紀要(人文・社会科学、芸術)』		53号	2004年3月
金子一夫		明治後期中学校における図画教科書の採用分布について	『美術教育学』		25号	2004年3月
金子隆一		新興写真研究会についての試論	『東京都写真美術館紀要』	東京都写真美術館	3号	2003年3月
金子隆一		The origins and Development of Japanese Art Photography	The History of Japanese Photography	Yale University		2003年3月
金子隆一	大迫正弘	1894年の東京地震の写真資料	『東京国立科学博物館紀要』	東京国立科学博物館		2004年12月
亀井志乃		フェノロサと「浮世絵史考」	『近代画説』	明治美術学会	9号	2000年12月
亀井志乃		<写真>と日本の近代—下岡蓮杖を中心に—	『アジア文化研究』	木浦大学アジア文化研究所(韓国)	5輯	2001年2月
亀井志乃		<学習院>の青年たち—『白樺』前史・武者小路実篤を中心に—	『文学』	岩波書店	3巻6号	2002年11月
河上眞理		プロスペロ・フェッレットティ研究—インド、日本、そしてイタリア	『近代画説』	明治美術学会	10号	2001年12月
河上眞理		ジョヴァンニ・ヴィンチェツォ・カッペレットティと19世紀後半のイタリア建築	『地中海学研究』	地中海学会	26号	2003年5月
河上眞理		工部美術学校設立事情考	『美術史』	美術史学会	155号	2003年10月
川端一穂		ヤスオ・クニヨシの時代と芸術—「戦争画」を中心に—	『大阪芸術大学短期大学部紀要』	大阪芸術大学短期大学部	25号	2001年3月
川端一穂		天心岡倉覚三の思想形成—福井人としての岡倉と橋本左内—	『LOTUS』	日本フェノロサ学会	23号	2003年3月
川端一穂		近代日本とボストン—天心岡倉覚三を中心に—	『大阪芸術大学短期大学部紀要』	大阪芸術大学短期大学部	29号	2005年3月
河田明久		「まるいかたち」とその背景—昭和前期前衛絵画の一側面	『美学』	美学会	207号	2001年12月
河田明久		日本人の肉体と「正しい身体」	『現代思想』	青土社	30巻9号	2002年7月
河田明久	五十殿利治	『クラシックモダン—一九三〇年代日本の芸術』		せりか書房		2004年12月
金恵信	池田忍	植民地期「朝鮮」と帝国「日本」の女性像	『拡大するモダニティ』(岩波講座 近代日本の文化史 第6巻)	岩波書店		2002年
金恵信		『韓国近代美術研究—植民地期「朝鮮美術展覧会」にみる異文化支配と文化表象』		ブリュッケ		2005年1月
金原宏行		『幕末から明治へのめまぐるしい美術』		沖積社		2003年11月
金原宏行		『近代日本美術の伏流』		沖積社		2004年11月
金原宏行		朝鮮通信使の眼と日本人絵師の眼	『常葉学園大学教育学部紀要』		25号	2005年3月
沓沢耕介		小倉惣次郎と大隈重信肖像	『早稲田大学会津八一記念博物館研究紀要』	早稲田大学会津八一記念博物館	4号	2003年3月
沓沢耕介		池野哲仙ノート	『人形玩具研究—かたち・あそび—』	日本人形玩具学会	14号	2003年9月
沓沢耕介		紀淑雄の美術家養成活動	『早稲田大学会津八一記念博物館研究紀要』	早稲田大学会津八一記念博物館	5号	2004年3月
久保いく子		山下りん筆「聖母子とヨハネ」の原画について	『日本美術研究』	筑波大学芸術系日本美術史研究室	1号	2001年9月
久保いく子		ラファエロのフィレンツェ時代の聖母子画における幼児洗礼者ヨハネの扱いについて	『芸術学研究』	筑波大学大学院博士課程芸術研究科・人間総合科学研究科	7号	2003年3月
久保いく子		矢代幸雄とアメリカ巡回日本古美術展覧会(一九五三年)	『近代画説』	明治美術学会	12号	2003年12月
桑原規子		恩地孝四郎の「楽曲による抒情」シリーズをめぐって—1930年代の日本の抽象絵画に関する一考察	『美学』	美学会	215号	2003年12月
桑原規子		1930年代創作版画の危機—伝統版画との対立のなかで	『クラシックモダン—1930年代日本の芸術』(五十殿利治・河田明久編)	せりか書房		2004年12月
桑原規子		竹久夢二と大正期の洋画家たち—光風会・フェウザン会・二科会の周辺—	『大正期美術展覧会の研究』	東京文化財研究所		2005年3月
向後恵理子		通信省発行日露戦役記念絵葉書—その実相と意義—	『美術史研究』	早稲田大学美術史学会	41冊	2003年12月

児島薫		中国服の女性像にみる近代日本のアイデンティティ形成	『実践女子大学文学部紀要』	実践女子大学文学部	44集	2001年3月
児島薫		見えない戦争—日本画に表されたく時局>	『戦争と記憶』(明治学院大学文学部芸術学科・イメージ&ジェンダー研究会共催シンポジウム報告書)	明治学院大学文学部芸術学科共同研究室		2004年3月
児島薫		「男性同盟」としてのパンテオン会	『パンテオン会雑誌』研究会編『バリー九〇〇年・日本人留学生の交遊「パンテオン会雑誌」資料と研究』	ブリュッケ		2004年7月
齊藤裕子		彫刻と観衆—東台彫塑会の取り組み—	『美術展覧会と近代観衆の形成について』(科研報告書)	研究代表者五十殿利治		2002年3月
齊藤裕子		構造社研究—イワン・メストロヴィッチとその影響—	『眞保亨先生古稀記念論文集 芸術学の視座』	勉誠出版		2002年6月
齊藤裕子		彫刻の社会化—東台彫塑会展と構造社展を中心に—	『大正期美術展覧会の研究』	東京文化財研究所		2005年3月
酒井忠康		『彫刻家への手紙—現代彫刻の世界』		未知谷		2003年1月
酒井忠康		『その年もまた—鎌倉近代美術館をめぐる人々』		かまくら春秋		2004年3月
酒井忠康		『新版 海の鎖—描かれた維新』		青幻舎		2004年8月
迫内祐司		戦時下における美術制作資材統制団体について	『近代画説』	明治美術学会	13号	2004年12月
佐々木央		京都の羅振玉と村山槐多	『日本の民芸』	(財)日本工芸館	546号	2001年3月
佐々木央		槐多・鷗外・エンジュの木	『日本の民芸』	(財)日本工芸館	566号	2002年11月
佐々木央		村山槐多『猫を抱ける裸婦』考	『日本の民芸』	(財)日本工芸館	578号	2003年11月
佐藤一郎	歌田真介・坂本一道	『明治後期油画基礎資料集成』		中央公論美術出版		2004年3月
佐藤一郎		『トンプソン教授のテンペラ画の実技』		三好企画		2005年8月
佐藤道信		目的と方法論	『日本における美術史学の成立と展開』(科研報告書)	東京文化財研究所		2002年3月
佐藤道信		“孤立した「日本文明」と留学	『美術フォーラム21』	醍醐書房	9号	2004年1月
佐藤道信		「美術史」展示のアイデンティティ	『芸術における公共性』(科研報告書)	東京芸術大学美術学部美学研究室		2005年3月
猿渡紀代子		渡辺幽香年譜稿	『横浜美術館研究紀要』	横浜美術館	5号	2003年3月
猿渡紀代子		虹色の夢をつむいだフランス人 浮世絵師ポール・ジャクレ	『ポール・ジャクレ展』(展覧会図録)	横浜美術館編/淡交社発行		2003年4月
猿渡紀代子		渡辺幽香作品目録	『横浜美術館・横浜市民ギャラリー研究紀要』	横浜美術館・横浜市民ギャラリー	6号	2004年3月
塩谷純		歴史画のつくりかた—菊池容斎の『前賢故実』	『is』	ポラ文化研究所	85号	2001年3月
塩谷純		《屈原》拾遺	『横山大観—その心と芸術』(展覧会図録)	東京国立博物館		2002年2月
塩谷純		“理想画”への道程—橋本雅邦《龍虎》以後	『美術研究』	東京文化財研究所	377号	2003年2月
塩谷善夫		『西洋油絵』見世物引札解説のためのメモワール	『見世物』	見世物学会	3号	2005年5月
清水恵美子		日米における「母なるもの」の表象—岡倉天心とその周辺について—	『F-GENSジャーナル』	お茶の水女子大学21世紀COEプログラムジェンダー研究のフロンティア	2号	2004年9月
清水恵美子		アメリカ人画家の描いた日本のイメージ—ポストン・コネクション:ジョン・ラファージと岡倉天心	『比較日本学研究中心研究年報』	お茶の水女子大学比較日本学研究中心	創刊号	2005年3月
清水恵美子		岡倉天心と西洋音楽—“The White Fox”『白狐』成立前史—	『人間文化論叢』	お茶の水女子大学人間文化研究所	7巻	2005年3月
清水重敦		明治後期の古社寺修理にかかわる技術者の出自について	『日本建築学会計画系論文集』	日本建築学会	558号	2002年8月
清水重敦		擬洋風建築	『日本の美術 7』	至文堂	446号	2003年7月
志邨匠子		アメリカにおける日本美術受容の背景—民主主義的芸術をめぐる—	『女子美術大学研究紀要』	女子美術大学	32号	2002年3月

志邨匠子	スティーグリッツ・サークルと日本美術(1)ーサダキチ・ハルトマンを中心にー	『目白大学人文学部紀要』	目白大学	11号	2004年1月
鈴木廣之	和辻哲郎『古寺巡礼ー偏在する「美」ー	『美術研究』	東京文化財研究所	379号	2003年3月
鈴木廣之	『好古家たちの19世紀ー幕末明治における《物》のアルケオロジーー		吉川弘文館		2003年10月
鈴木廣之	一八七九年のW・アンダーソン「日本美術の歴史」	『美術研究』		383号	2004年8月
鐸木道剛	イコン論から偶像論へ	『エイコーン』	新世社	26号	2002年12月
鐸木道剛	小山正太郎『北條時頼像』	『金刀比羅宮の名宝・絵画』	金刀比羅宮		2004年9月
鐸木道剛	中世ロシア・イコンの発見と現代ー大主教ニコライの客間の絵画からロシア・アヴァンギャルドまでー	『キリスト教文化研究所年報』	ノートルダム清心女子大学	27号	2005年3月
泰井良	吉田博の水彩画についてー不同舎時代を中心にー	『静岡県立美術館紀要』	静岡県立美術館	17号	2002年3月
泰井良	道路山水と風景画について	『もうひとつの明治美術ー明治美術会から太平洋画会へ』(展覧会図録)	静岡県立美術館他		2003年7月
泰井良	和田英作《富士》について	『静岡県立美術館紀要』	静岡県立美術館	20号	2005年3月
高尾曜	岩崎文五について	『暁斎ー河鍋暁斎研究誌ー』	河鍋暁斎記念美術館	70号	2000年9月
高尾曜	飯塚桃葉の印籠	『華麗なる装い』	徳島城博物館		2003年10月
高尾曜	国宝「彦根屏風」の伝来と柴田是真	『彦根城博物館研究紀要』	彦根城博物館	16号	2005年3月
高木博志	近世の内裏空間・近代の京都御苑	『岩波講座 近代日本の文化史 2』	岩波書店		2001年12月
高木博志	近代天皇制と古代文化ー「国体の精華」としての正倉院・天皇陵	『岩波講座 天皇と王権を考える 5』	岩波書店		2002年7月
高木博志	日本美術史／朝鮮美術史の成立	『朝鮮・台湾における植民地支配の制度・機構・政策に関する総合的研究』(科研報告書／水野直樹代表)			2004年5月
瀧井直子	<眼差し>の交錯ーセオドア・ウォレスの日本女性像をめぐるー	『美術史研究』	早稲田大学美術史学会	39冊	2001年12月
瀧井直子	日本の子供たちをめぐる眼差しー『日本のおちびさんたち』をめぐるー	『早稲田大学大学院文学研究科紀要』	早稲田大学大学院文学研究科	49輯	2004年2月
瀧井直子	チャールズ・デイター・ウェルドンと日本	『鹿島美術研究年報』	鹿島美術財団	21号別冊	2004年11月
滝沢恭司	矢橋丈吉年譜考	『現代芸術研究』	筑波大学芸術学系・五十殿研究室	5号	2003年4月
滝沢恭司	マヴォの版画について	『町田市立国際版画美術館紀要』	町田市立国際版画美術館	8号	2004年3月
滝沢恭司	横井弘三の理想大展覧会について	『大正期美術展覧会の研究』	東京文化財研究所		2005年3月
立花義彰	台湾における屋外彫刻現地踏査での随想	『屋外彫刻調査保存研究会会報』	屋外彫刻調査保存研究会	3号	2004年11月
龍野有子	『有翼の天女図』考ー本多錦吉郎《羽衣天女》(明治二三年)を中心にー	『語り出す図像：視覚資料の可能性』	岡山大学文学部		2005年3月
田中修二	新海竹太郎と太平洋画会	『太平洋美術会百年史』	太平洋美術会		2004年4月
田中修二	銅像と空の関係	『屋外彫刻調査保存研究会会報』	屋外彫刻調査保存研究会	3号	2004年11月
田中修二	『アンリ・ブシャールとその美術館』(日本語版解説)		Musée Bouchard, Paris		2005年3月
田中秀隆	岡倉天心の日本文化論ー『茶の本』の対位法	『徳川林政史研究所研究紀要』	徳川林政史研究所	36号	2002年3月
田中秀隆	文化研究の潮流と近代茶道史研究	『芸能史研究』	芸能史研究会	162号	2003年7月
田中秀隆	茶道全集と利休・芸術・生活	『クラシックモダンー1930年代日本の芸術』(五十殿利治・河田明久編)	せりか書房		2004年12月
谷口英理	『アジア復興レオナルド・ダ・ヴィンチ展覧会』と戦時下の「レオナルド時代」	『近代画説』	明治美術学会	12号	2003年12月
谷口英理	花田清輝「復興期の精神」と戦時下における「ルネサンス」	『クラシックモダンー1930年代日本の芸術』(五十殿利治・河田明久編)	せりか書房		2004年12月

谷口英理	越境するく矢印>『マヴォ』『死刑宣告』の周辺	『大正期美術展覧会の研究』	東京文化財研究所		2005年3月
丹尾安典	『平和国家』の「滅私奉公」	『比較文学年誌』	早稲田大学 比較文学研究室	37号	2001年3月
丹尾安典	評伝・山口八九子	『山口八九子の画境』(展覧会図録)	早稲田大学 津八一記念博物館		2002年6月
丹尾安典	国史の図像群	『早稲田大学大学院文学研究科紀要』	早稲田大学 大学院文学研究科	49輯	2004年2月
千葉慶	アマテラス=明治天皇のシンボリズム-明治初期における民心収攬の政治学-	『権力と視覚表象』	千葉大学 社会文化科学研究科		2001年3月
千葉慶	狩野芳崖『非母観音』を読む	『権力と視覚表象Ⅲ』	千葉大学 社会文化科学研究科		2003年3月
千葉慶	日本美術思想の帝国主義化-1910~20年代の南画再評価をめぐり-考察	『美学』	美学会	213号	2003年6月
手塚恵美子	パンテオン会の軌跡-会員たちの記録、日記、回顧録、書簡等より	『パンテオン会雑誌』研究会編『バリー九〇〇年・日本人留学生の交遊『パンテオン会雑誌』資料と研究』	ブリュッケ		2004年9月
寺門寿明	放菴と文哉:師弟の歲月-小杉放菴の回想「十三から二十三」までを読む(上)	『耕人』	耕人社	7号	2001年4月
寺門寿明	五百城文哉の生涯と「高山植物写生図」	『兎嶽の百花譜-五百城文哉の植物画』(展覧会図録)	水戸市立博物館		2004年2月
寺門寿明	日光植物園の創設と三人の水戸藩士-五百城文哉、松村任之、中山信徴	『耕人』	耕人社	10号	2004年5月
戸張泰子 (筆名:利根川泰子)	上村松園の画業における「楊貴妃」の位置づけ	『女子美術大学研究紀要』	女子美術大学	31号	2001年3月
戸張泰子	上村松園・ふたつの「四季美人図」をとりまく状況	『女子美術大学研究紀要』	女子美術大学	32号	2002年3月
戸張泰子	上村松園「花がたみ」にかんする考察	『女子美術大学研究紀要』	女子美術大学	33号	2003年3月
富田章	ロシア国立東洋美術館における首藤コレクションの意義について	『芸術会館 海外美術品調査報告書』	大分県立芸術会館	2003年度	2004年2月
富田章	平井房人の仕事について-戦前期の活動を中心に	『サントリー美術館 サントリーミュージアム〔天保山〕合同研究紀要』	サントリーミュージアム〔天保山〕	1号	2004年12月
中右恵理子	『亜鉛華を使用した地塗りに起因する剥離現象に関する研究』(博士論文、東京芸術大学)				2003年6月
長嶋圭哉	『肇国創業絵巻』の研究	『藝叢』	筑波大学 芸術学系研究室	17号	2001年1月
長嶋圭哉	日本画の戦争画と古典絵画論-「戦争美術展覧会」(一九三八年)を中心に-	『美術史』	美術史学会	155号	2003年10月
長嶋圭哉	「日本壁画」の古典化をめぐって-法隆寺金堂壁画と近代日本画	『クラシックモダン-1930年代日本の芸術』(五十殿利治・河田明久編)	せりか書房		2004年12月
中島朋子	The Vogue for Things Japanese in the American Aesthetic Movement	『年報 地域文化研究』	東京大学 大学院総合文化研究科 地域文化研究専攻	4号	2001年3月
中島朋子	アメリカのエステティック・ムーブメントにおける日本の美術工芸品の受容	『近代画説』	明治美術学会	10号	2001年12月
中島朋子	The Formative Years of the Transpacific Networks Promoting Japanese Studies in America	『東京大学アメリカ太平洋研究』	東京大学 大学院総合文化研究科 附属アメリカ太平洋地域研究センター	4号	2004年3月
新関公子	横山大観「海山十題」をめぐって-生きたがる寂しい巨人の彩管報国	『横山大観「海山十題」』(展覧会図録)	東京芸術大学 大学美術館		2004年7月
新関公子	版画をめぐる東西イメージの交流-浮世絵の成立とその印象派への影響	『HANGA 東西交流の波』(展覧会図録)	東京芸術大学 大学美術館		2004年9月
新関公子	夏目漱石と美術-青木繁という才能の発見	『文芸春秋』(特別版 12月臨時増刊号)	文芸春秋社	82巻16号	2004年12月

西恭子		『竹久夢二コレクション』		紫峰図書	1～3	2000年4月～ 2001年7月
西恭子		竹久夢二の初期コマ絵	『夢二 1884～1934 アヴァンギャルドとしての抒情』(展覧会図録)	町田市立国際版画美術館		2001年3月
西恭子		竹久夢二の「自由画論」と美術教育	『女子美術大学研究紀要』	女子美術大学	35号	2005年3月
林洋子		『壁画謹製記録』に見る大正・昭和初期の美術界と歴史との出会い	『明治神宮叢書』	国書刊行会	18巻 資料編(2)	2003年11月
林洋子		藤田嗣治―日本が生み、パリが育てた多文化の画家	『近代日本と仏蘭西、10人のフランス体験』	大修館書店		2004年
林洋子		旅する画家・藤田嗣治―一日仏のあいだのアメリカ	『美術研究』	東京文化財研究所	381号	2004年
廣瀬就久		満谷国四郎小考―第2次渡欧と中国旅行をめぐって―	『もうひとつの明治美術―明治美術会から太平洋画会へ』(展覧会図録)	静岡県立美術館他		2003年7月
廣瀬就久		満谷国四郎の大正時代―小杉未醒との比較を中心に―	『大正期美術展覧会の研究』	東京文化財研究所		2005年3月
廣瀬就久		『緑川洋一とゆかりの写真家たち 1938―59』(展覧会図録)		岡山県立美術館		2005年3月
チェルシー・フォックスウェル (Chelsea Foxwell)		The Double Identity of Chū-shingura: Theater and History in Nineteenth-Century Prints	<i>Impressions: The Journal of the Ukiyo-e Society of America, Inc.</i>	The Ukiyo-e Society of America	26号	2004年12月
福田徳樹		安田毅彦―交錯する視線・歴史画家の成立	『安田毅彦―歴史画の魅力』(展覧会図録)	平塚市美術館		2002年2月
福田徳樹		吉岡堅二素描論―アングルによって	『吉岡堅二素描展』(展覧会図録)	青梅市立美術館		2003年10月
福田徳樹		後期の作品 川上澄生・その南蛮船図に見る表現に則して	『1945―72 木版画家川上澄生の後期』(展覧会図録)	鹿沼市立川上澄生美術館		2004年10月
福永和代		久保田米僊の画業に関する基礎的研究(1)『絵嶋之霞』の作品分析を中心に	『お茶の水女子大学人文科学紀要』	お茶の水女子大学	55巻	2002年3月
福永和代		竹内栖鳳とポール・クローデルの交流について―王舎城美術博物館所蔵関連資料の検討を中心に	『鹿島美術研究年報』	鹿島美術財団	別冊20号	2003年11月
福永和代		久保田米僊の画業に関する基礎的研究(2)久保田米僊と日清戦争	『お茶の水女子大学人文科学紀要』	お茶の水女子大学	57号	2004年3月
福寄美和子		<柿内青葉>に関する調査報告(上)	『女子美術大学芸術学科紀要』	女子美術大学芸術学科	1号	2000年9月
福寄美和子		<柿内青葉>に関する調査報告(下)	『女子美術大学芸術学科紀要』	女子美術大学芸術学科	2号	2002年3月
舟木力英		中村彝における印象派の受容―<影響>の様々な事実と様相	『美術フォーラム21』	醍醐書房	7号	2002年12月
舟木力英		中村彝の名前と署名	『茨城県近代美術館研究紀要』	茨城県近代美術館	11号	2004年3月
舟木力英		多面体の才能・安野光雅の世界	『安野光雅の世界展』(展覧会図録)	茨城県つくば美術館		2004年9月
古田亮		琳派から RIMPA へ	『琳派 RIMPA』(展覧会図録)	東京国立博物館		2004年8月
増野恵子		明治中期の災害画像を考える―メディア史の視点から―	『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』	神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議	2号	2004年12月
松井貴子		『写生の変容―フォントナーズから子規、そして直哉へ』		明治書院		2002年2月
松井貴子		アントニオ・フォントナーズ美術理論―日本・ルネサンス・写真	『日伊文化研究』	日伊協会	40号	2002年3月
松井貴子		子規と写生画と中村不折	『国文学 解釈と教材の研究』	學燈社		2004年3月
松岡智子		倉敷における『文化都市構想』と大原美術館	『倉敷の歴史―倉敷市史紀要―』	倉敷市	12号	2002年3月
松岡智子	太田泰人・水沢勉・渡辺真里	『美術館は生まれ変わる』		鹿島出版会		2002年12月
松岡智子		『児嶋虎次郎研究』		中央論美術出版		2004年11月

クリストフ・マルケ (Christophe Marquet)		工芸の革新をめざした画家、浅井忠一 忘れられた黙語図案をふりかえって	『浅井忠の図案』(展覧会 図録)	佐倉市立美術館・ 愛媛県立美術館		2002年2月
クリストフ・マルケ (Christophe Marquet)		浅井忠と「日本画」：日本の伝統美術へ の眼差し	『美術フォーラム21』	醍醐書房	6号	2002年6月
三浦篤		黒田清輝と西洋美術	『講座 日本美術史』	東京大学出版会		2005年4月
三上美和		日本近代美術の蒐集家	『学習院大学人文科学論 集』		12号	2003年11月
三上美和		原三溪の美術家援助	『学習院大学人文科学論 集』		13号	2004年11月
三上美和		明治期官立博物館の特別展覧会	『LOTUS』	日本フェノロサ学 会	25号	2005年3月
三木哲夫		『浜口陽三全版画作品集』(編著)		中央公論美術出版		2000年7月
三木哲夫		1920年代の創作版画運動—展覧会を中心 に—	『日本の版画1921—1930 都市と女と光と影と』(展 覧会図録、編集・千葉市 美術館他)	東京新聞		2001年9月
三木哲夫		『バリと私—浜口陽三著述集』		玲風書房		2002年10月
宮下規久朗		『バロック美術の成立』		山川出版社		2003年10月
宮下規久朗		発酵するイコナー—かくれキリシタン聖画 考	『美術フォーラム21』	醍醐書房	10号	2004年7月
宮下規久朗		『カラヴァッジョ—聖性とヴィジョン』		名古屋大学出版会		2004年11月
宮野力哉		『絵とき横浜ものがたり』		東京堂出版		2001年9月
宮野力哉		『絵とき百貨店文化誌』		日本経済新聞社		2002年10月
宮野力哉		『横浜・船と港ものがたり』		東京堂出版		2004年9月
宮本高明		W. グラッケンズと印象派	『ニューヨーク・ブルック リン美術館所蔵印象派 フランス—アメリカ』(展 覧会図録)	同展カタログ委員 会		2000年
宮本高明		ノルマンディーという地	『印象派の故郷、ノルマン ディーの風景』(展覧会図 録)	同展実行委員会		2002年
宮本高明		エイキンズとオキーフ 二人のアメリカ 人画家	『美術フォーラム21』	醍醐書房	9号	2004年1月
村角紀子		明治期の古美術写真—畿内宝物取調を中心 に—	『美術史』	美術史学会	153冊	2002年10月
村角紀子		藤岡作太郎研究—『近世絵画史』と明治 三十年代の日本美術史—	『鹿島美術研究年報』	鹿島美術財団	21号別冊	2004年11月
村上敬		太平洋画会とアメリカ	『もうひとつの明治美術— 明治美術会から太平洋画 会へ』(展覧会図録)	静岡県立美術館他		2003年7月
村上敬		清水登之《セーヌ河畔》について	『静岡県立美術館紀要』	静岡県立美術館	19号	2004年3月
村上敬		「<彫刻>と<工芸>—近代日本の技と 美」企画ノート	『<彫刻>と<工芸>— 近代日本の技と美』(展覧 会図録)	静岡県立美術館		2004年8月
森登		銅・石版画遺聞	『一寸』	書痴同人	2~23号	2000年4月~ 2004年7月
森登		《石画試験》から《玉堂富貴》へ	『描かれた明治ニッポン <研究篇>』	描かれた明治ニッ ポン展実行委員会		2002年8月
森登		江戸の銅版画家1~3	『日本古書通信』	日本古書通信社		2005年1月 ~3月
安永幸一	K.H.Brown, M.Welch, E.M.Skibbe, L.W.Allen	Lofty Mountains and Misty Valleys: The Art and Life of Yoshida Hiroshi	A Japanese Legacy: Four Generations of Yoshida Family Artists	The Mineapolis Institute of Arts		2002年2月
柳沢秀行		中山巍と1920年代バリ	『中山巍1920年代バリ』 (展覧会図録)	豊科近代美術館他		2001年8月
柳沢秀行		マリー・ローランサンと日本—日本人は どこまでたどり着いたか	『マリー・ローランサン回 顧展』(展覧会図録)	東京都庭園美術 館他		2003年3月
柳沢秀行		背後に人間がいること—土方定—史観— 大原コレクション、そして、についての 素描—	『和製油画—創造の軌跡— 』(展覧会図録)	大原美術館・金刀 比羅宮		2003年12月



山口泰二		柳瀬正夢のモザイク点描と《果樹島園》	『美術運動史研究会ニュース』	美術運動史研究会	44号	2000年12月
山口泰二		『アメリカ美術と国吉康雄—開拓者の軌跡』		日本放送出版協会		2004年3月
山田直子		小山正太郎における自然写生について—日本近代風景画誕生に関する一試論—	『女子美術大学研究紀要』	女子美術大学	32号	2002年
山田直子		従軍した画家たち—『戦時画報』における不同舎門人の活動	『女子美術大学研究紀要』	女子美術大学	33号	2003年
山田直子		小山正太郎・不同舎門人筆<日清戦争パノラマ画>考	『女子美術大学研究紀要』	女子美術大学	34号	2004年
山領まり		『邯鄲夢枕』に使われた紙	『絵画修復報告』	山領絵画修復工房	6号	2004年3月
山領まり	西原紀恵	修復報告・ジャン＝フランソワ・ミレー《冬（凍えたキューピッド）》	『山梨県立美術館研究紀要』	山梨県立美術館	19号	2004年11月
山領まり		修復報告・紙の両面に描かれた素描（松本竣介「Y市の橋」「甲州街道付近」）	『神奈川県立近代美術館年報』	神奈川県立近代美術館	2003年度	2005年3月
吉田千鶴子		岡倉天心と久保田鼎	『五浦論叢』	茨城大学五浦美術文化研究所	10号	2003年3月
吉田千鶴子		『東京美術学校の外国学生』		天馬出版有限公司		2004年12月
吉田千鶴子		日印友好の懸橋—野生司香雪とサルナート、ムラガンダー寺院壁画—	『早稲田大学会津八一記念博物館研究紀要』	早稲田大学会津八一記念博物館	6号	2005年3月
依田徹		日本美術史における茶の湯	『國華』	國華社	1292号	2003年6月
渡部周子		黒田清輝の《樹蔭》についての試論	『文学・メディア・ジェンダー—千葉大学大学院社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書』	千葉大学大学院	43集	2002年3月
渡部周子		浪漫主義文芸に開く花—「白百合」「董」考	『権力と視覚表象—千葉大学大学院社会文化科学研究プロジェクト報告書』	千葉大学大学院	67集	2003年3月
渡部周子		『日本近代期における規範としての「少女」像の形成』（博士論文・千葉大学大学院）				2004年9月